

中部圏版

中部支局

名古屋市中区栄3-28
-25 HARADA 栄南
302号
電話 052(269)0341
FAX 052(269)0342
Eメール
chubu@toukou-np.co.jp

中部運輸局管内の5県の
情報を報道しています。

タク特措法改正

「活性化、積極的に」

森・中タク連会長

中部タクシィ協会連合会
の森博一会長は20日、タク
シィ特措法改正案の参議院
可決、成立を受けて、「活
性化に向けた方策を地域で
積極的に進めたい」とコメ
ントした。同会長は「前向
きに取り組みたい」とも述
べ、法律の求める業界の適
正化・活性化を早急に目指
す考えも示した。

千代田タク

静岡初のU・D研修

自治体の支援態勢受けて

千代田タクシィ(静岡市、加藤高立社長)は21日、市内の県総合社会福祉会館で「バリアフリー研修
推進実行委員会」認証のユニバーサルドライバー(U・D)研修を行った。タクシィ団体や事業者でU・D
研修を実施するのは県内では初。同社から11人と他の4社から8人の乗務員計19人が受講した。県内では
12月3日以降、静夕協各地区でU・D研修が予定されており、21日はこれに先立っての実施となった。
静岡県も、静夕協の取り組みに積極的な支援態勢をとっている。



「指を挟まないように」と注意点を聞きながら、車いすの操作方法を学ぶ乗務員(21日、県総合社会福祉会館で)

加藤社長は冒頭のあいさ
つで、「今回の研修は静岡
県観光部のU・Dツアー推進
連絡会と、健康福祉部の支
援を受けて実現することが
できた」と自治体の支援態
勢を強調。その上で、「タ
クシィのビジネスモデルも
変化していく。U・Dタクシ
ーが新しい方向を指し示す
きっかけになれば」とU・D
研修による知識・技能がタ
クシィ乗務員にとって今
後、重要になるとの認識を
示した。

来賓の静岡健康福祉部
福祉長寿局の大石玲子局長
は「研修への支援は、地域
ぐるみで高齢者を見守る
『ふじのくに安心地域支え
合い体制づくり県民会議』
に県タクシィ協会が参加し
たのがきっかけ」と、静夕協
との協力関係を強調した。
講師は、加藤社長と金谷
タクシィの塚本昭社長のU
D研修講師資格者、社会福
祉法人ヒロス(静岡市)の
青野全弘理事(サービス管
理責任者)が務めた。

講習では、加藤氏が「タ
クシィの接遇はおもてなし
の連続だ」とし、接遇がま
ずあって、介助があると基
本を確認。
「高齢者が4人に1人に
なり、東京五輪から5年後
には3人に1人になると予
測されている。今がタクシ
ーの出番。心のバリアフリ
ーが大事で、理解・配慮・
思いやりの共生社会を築く
ようにしたい。ユニバーサ
ル社会とは、だれでもみん
なが気軽に外出できる社
会」などと解説した。
塚本氏は乗務員としても
勤務する経験を交え、お客
さまとのコミュニケーション
の留意点について講義。健
康管理の重要性や緊急時の
対応も解説した。

青野氏は交通事故で車い
す生活になった立場から、
高齢者、認知症者、肢体不
自由者の接遇、視覚障がい
者、聴覚・言語障がい者、
知的障がい者などの接遇・
介助の留意点を講義。「移
動困難者は車に乗って外出
することは自由になれるので
大変うれしい。この大好き
な移動を手伝うのがタクシ
ー乗務員」と指摘した。
具体例対処法のグループ
討議も行った。

「仕切り板」効果あ

愛夕協 繁忙期控ええ防

愛知県タクシィ協会は19
日、高浜市の中央公民館で
タクシィ強盗対策の防犯訓
練を行った。刈谷碧南支部
の7社を含む計8社の管理
者や乗務員50人が参加、年
末の繁忙期を控ええ防犯対策
を学んだ。
愛知県警本部の石川紀之
生活安全総務課係長、碧南
署の山下尚勝生活安全課長
らが講師を務めた。実地訓
練は、2つの形態を想定し、
①防犯板がないタクシィ
で、駅前乗り場で乗客を装
って乗り込み、暗がりでも
乗務員が乗務員役、乗務
員が犯人役となって実施。
自車の設備について理解を
深める目的で、防犯板のあ
るタクシィを使用した。
という状況設定で行った。
犯人役を務めた乗務員は
訓練後、「防犯板があるこ
とで、右手は使いにくく、
左手で行うしかなかった」と
話し、防犯板の一定の効
果を体感していた。
講義では、県内のタクシィ

